

対人援助者のスキルアップ研修

公益社団法人 広島県社会福祉士会

〒732-0816 広島県広島市南区比治山本町 12-2

助成事業の概要

罪を犯しても地域の中でやり直せる社会であるために、支援者や一般市民が一堂に会し、学び合う場を持ち、日々の活動（業務）を振り返り、今後に活かす気づきを得ることを目的とする。

◇《講演と鼎談》 2017/10/28 開催

第1回：共に生きる社会のために～支援を考える

・講演 「意思決定と権利擁護～対話から生まれるもの」

・講師：竹端寛氏（山梨学院大学 法学部政治行政学科教授）

・鼎談 登壇者：竹端寛氏 中島康晴氏（日本社会福祉士会副会長）河合知義氏（広島県地域生活定着支援センター長）

◇《映画鑑賞と監督のお話》 2017/11/18 開催

第2回：共に生きる社会のために～罪に向き合うとは

・映画上映 「Lifers ライファーズ終身刑を超えて」

・講師：坂上 香氏（映画監督）

◇《講演と意見交換会》 2017/12/16 開催

第3回：共に生きる社会のために～私たちは何を学ぶか

・講演 -1 「長崎の実践を広島へ」

・講師 伊豆丸剛史氏（長崎県地域生活定着支援センター所長）

・講演 -2 「福祉と司法、どう手をつなぐか」

・講師 佐藤邦男氏（広島弁護士会 更生保護プロジェクトチーム座長）

・意見交換会 指定発言者：山田勘一氏（更生保護法人ウィズ広島理事長）

◇《講演と鼎談》 2018/1/20 開催

第4回：共に生きる社会のために～ネットワークをどうつくるか

・講演 「伴走型支援とは～今後の刑余者支援について」

・講師 奥田知志氏（NPO法人抱樸代表）

・鼎談 登壇者：奥田知志氏 中島康晴氏（日本社会福祉士会副会長）河合知義氏（広島県地域生活定着支援センター長）

事業の成果

対人援助業務を遂行するにあたり直面する課題である「支援」というものを改めて考えるために、様々な分野で活躍しておられる多彩な講師陣を招き、全4回の連続研修を開催。行政、医療、福祉、更生保護等、関係機関はじめ、多数の市民が参加。

* 参加延べ人数：235人

◇事業成果として期待できることは次のとおり。

・支援者と利用者の相互理解を深めるために、何が課題か気づきを得る機会になった。

・それぞれの現場に課題や気づきを持ち帰り、今後の業務に活かすきっかけになった。

・研修内容を共有することによって、支援者自身を互いに支えることを可能にしていく。

・罪を犯した人が再び地域で暮らすとはどういう

ことなのか、また、そのためには何が必要か、何ができるのかをそれぞれの立場で考え、更には行動に移すことにつながる。

・報告書を関係機関へ配布することにより、研修内容を共有し、協働を推し進めることへの後押しとなった。

・講演、ワークショップ、意見交換会、映画鑑賞、鼎談等を交えて、講師、参加者が互いの意見を聞き合い学び合う機会を得た。多様な意見に耳を傾け、日々の業務や暮らしを振り返ることができた。

・連続研修を通じて、参加者間、関係機関間のネットワーク構築が期待される。

■ 成果の広報、公表

1. 報告書作成し、関係機関等に配布する。
2. 会報、ホームページを活用し、周知を図る。
3. 連絡協議会等を利用し報告する。

■ 今後の展開

今回の連続研修では、対人援助業務に携わる関係者、一般市民が一堂に会し、それぞれの現場に「支援」の課題を持ち帰ることができた。その課題をどのような具体的な行動に結び付けて行くか、業務に活かして行くかを考えていく。

罪を犯した人が地域で生活を再構築するために、支援者だけではなく、市民として私たち一人ひとりが、それぞれの立場で考え、行動して行くことが必要であるとの視点を持ち、協働していく。

地域の中でやりなおせる社会、共に生きる社会を目指して業務を推進していく。